

# 令和7年度 帯広圏デジタル化推進協議会 議事概要

日時：令和8年2月20日（金） 16時00分～

場所：帯広市役所4階 会議室

## 1 帯広圏デジタル化推進構想の取り組みについて

はじめに、配布資料について説明し、次のとおり意見交換を行った。要旨は以下のとおり。

## 2 帯広圏におけるデジタル化推進に向けた意見交換

### <委員>

- 数年前にはできなかったことが、今ではスマートフォンでできるようになるなど技術革新が急速に進展している。
- 農業分野における AI 活用や自動運転などをはじめ、どの領域へ投資していくか、付加価値やリターンを不断に研究する必要がある。
- 住民の幸せを考えた時に、「安全安心」をベースに置きながら、水道、消防、教育、医療など、地域間で連携しデジタル化を進めていく形が理想。
- 25万人規模だからこそ優位性のある取り組みについても、検討していく必要がある。

### <委員>

- 個々の自治体での取り組みは素晴らしい。
- アドバイザリーボードでのご意見のとおり、共通的な業務を広域で民間へアウトソーシングしていくことは重要な視点。
- 生成 AI の進捗が顕著であるが、職員が使いこなせる状況になっていくことが重要。

### <委員>

- デジタル化の取り組みを進めているが、事務の効率化に繋げていくためには、職員がツール等を使いこなせるようになるなど、個々の IT リテラシーを向上させていくことが重要。
- 国の主導により、システム標準化の取り組みが進められているが、標準化前に電子化した場合は、標準化移行後に、再度、変更作業等が発生し、手間・経費面で二重にかかってくることも考慮する必要がある。
- この分野は、技術の進展が早い一方で、サービスの終了や事業者の吸収・倒産などのリスクも大きく、考慮していく必要がある。

#### <委員>

- 技術革新のスピードに、国の規制改革が追いついていない。
- AI 技術は、業務の効率化に向けて有効な手段。今後、いかに低コストで導入し、職員に定着させていくかを考えていく必要がある。
- そこに住む人、応援する人など、関係者全員の幸福度を高めていく視点が重要。
- 1市3町の帯広圏は、デジタル化に関する熱量が高く、また、地域で連携しながら取り組んでいける土壌がある地域。

#### <座長>

- 生成 AI 等の技術革新が想定を超える速度で進展しており、陳腐化も早い。
- 一方で、全国的にシステム標準化の取り組みが遅延しているほか、各自治体の運用コストが増大するという課題も生じている。
- 情報連携の環境整備が進むと、医療分野等で住民サービスの向上が期待できるが、同時にセキュリティをどのように担保していくかも検討していく必要がある。
- 業務の見直しとデジタル化を一体的に推進していく視点が重要。
- 本構想のように、一つのビジョンを地域間で共有し、取り組みを進めていることは、全国的に見ても先駆的。
- 個々のデジタル化の取り組みは素晴らしいが、全体を俯瞰することも重要。
- 一人ひとりのウェルビーイングが異なる中で、デジタル化の先にある住民の幸せや地域の活力向上のイメージを、地域や住民と共有していけると良い。

### 3 その他

- 特に意見等無し。

以上